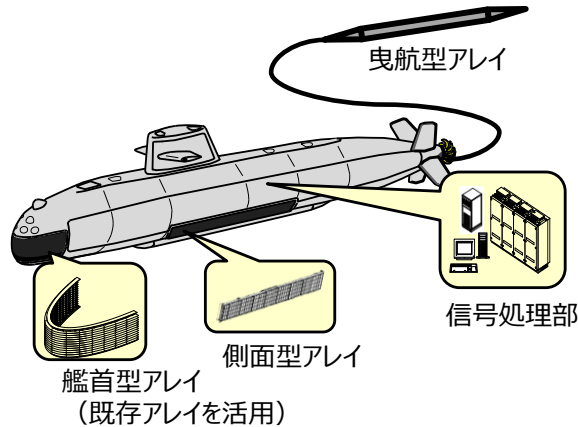


「将来潜水艦用ソナー装置の開発」

1 事業の概要

本事業は、将来にわたり潜水艦の水中領域における優位性を継続保持するため、探知能力を向上させたソナー装置の開発について事業に着手する。



イメージ図

2 取得方法の検討

取得方法として、新たに開発事業（1機種）に着手するか、海外の既存品（複数機種）から調達するかについて、各候補が「信号処理」、「測距機能」などの要求性能を満たすか否かを評価。

3 検討結果

開発の候補のみが全ての要求性能を満たす見込みが得られたことから、取得方法として開発することを選択した。

次に、この開発事業について、運用構想や具体的な整備計画などの所要の要件を確認したところ、満たすべき要件について確認できたことから、**事業名「将来潜水艦用ソナー装置の開発」として令和3年度予算案に計上することを決定した。**

なお、量産単価は約28.3億円、ライフサイクルコスト[※]は約809億円の見積りとなった。

※ 選定手続における一定の条件下での見積りであり、今後、変更があり得る。

「流体雑音低減型水中発射管構成要素の研究」

1 事業概要

本事業は、潜水艦の更なる静粛化のため、魚雷等を射出する際の発射音を低減する技術の研究について事業に着手する。



イメージ図

2 取得方法の検討

取得方法として、新たに研究事業（1機種）に着手するか、海外の既存品（複数機種）から調達するかについて、各候補が「静粛性」、「射出流速の可変制御」、「我が国潜水艦への適合性」などの要求性能を満たすか否かを評価。

3 検討結果

研究の候補のみが全ての要求性能を満たす見込みが得られたことから、取得方法として研究することを選択した。

次に、この研究事業について、運用構想や具体的な整備計画などの所要の要件を確認したところ、満たすべき要件について確認できたことから、**事業名「流体雑音低減型水中発射管構成要素の研究」として令和3年度予算案に計上することを決定した。**

なお、量産単価は約26.8億円、ライフサイクルコスト[※]は約491億円の見積りとなった。

※ 選定手続における一定の条件下での見積りであり、今後、変更があり得る。

「新特殊降下傘（通常用）」

1 事業の概要

現有の特殊降下傘の製造終了に伴い、空挺団の偵察部隊などの隊員が高高度から隠密に特定の地点に降下する際に使用するため、新特殊降下傘（通常用）を取得する。



新特殊降下傘（通常用）

2 取得方法の検討

取得方法として、陸上自衛隊が必要とする要求性能が満たされると考えられる国内外の既存品（複数品種）を抽出。各候補が吊下性能、滑空性能などの主要な要求性能を満たすか否かを評価。

3 検討結果

吊下性能及び滑空性能については複数の候補とも主要な要求性能を満たしたため、まず、一般競争入札により、試験のための参考品2品種を取得した。

平成30年度、2品種の参考品を取得し、性能試験を行い、吊下性能、滑空性能、開傘衝撃（※1）等について確認したところ、1つの候補については一部の要求性能を満たさず、要求性能を満たす候補は1つのみであった。

次に、当該参考品について、必要な要件を満たすことが確認できたことから、同参考品の仕様と同等以上の器材の取得に必要な経費を、**事業名「新特殊降下傘（通常用）」として令和3年度予算案に計上することを決定した。**

なお、当該製品については、現特殊降下傘の構成品を活用することにより量産単価を1式当たり約1千万円から約3百万円に低減した。また、導入後に必要となる維持・運用に要する経費を含めたライフサイクルコスト^{※2}は、約10.4億円（約250式取得時）の見積りとなっている。

※1 開傘衝撃：降下傘を開いた際に隊員が受ける衝撃

※2 選定手続きにおける一定の条件下での見積りであり、今後、変更があり得る

「重装輪回収車（改）」

1 事業の概要

16式機動戦闘車等の戦闘車両及び重車両の整備・回収支援を実施するため、現有の重装輪回収車の整備・回収能力を向上させた重装輪回収車（改）を取得する。



重装輪回収車（改）

2 取得方法の検討

取得方法として、陸上自衛隊が必要としている16式機動戦闘車の吊上げけん引による回収能力等が満たされると考えられる海外の既存品（複数車種）を抽出。各候補が16式機動戦闘車等の整備・回収支援に使用できるクレーン能力や16式機動戦闘車等の同行に必要なとされる走行性などの要求性能を満たすか否かを評価。

3 検討結果

既存品の複数の候補についてクレーン能力、走行性、道路法等の国内法令への適合性など必要とする要求性能すべてを満たす候補がなかったことから、平成28年度予算において現有の重装輪回収車をベースとしてクレーン能力等の性能を向上させた重装輪回収車（改）の研究改善事業に着手した。

重装輪回収車（改）については、令和元年度に参考品として試験用車両を受領し、性能試験の結果、陸上自衛隊が要求する性能を満たすことが確認できた。

次に、当該参考品について、運用構想や具体的な整備計画などの所要の要件を確認したところ、要件を満たすことが確認できたことから、同参考品の仕様と同等以上の車両の取得に必要な経費を、**事業名「重装輪回収車（改）」として令和3年度予算案に計上することを決定した。**

なお、当該車両については、量産単価は1両当たり約175百万円、導入後に必要となる維持・運用に要する経費を含めたライフサイクルコスト[※]は、約81億円（約30両取得時）の見積りとなっている。

※ 選定手続きにおける一定の条件下での見積りであり、今後、変更があり得る。

「電波情報収集機（RC-2）用機上電波測定装置」

1 事業の概要

本事業は、現有の電波情報収集機（YS-11EB）の後継として整備する電波情報収集機（RC-2）用の機上電波測定装置を取得する。



電波情報収集機「RC-2」

2 取得方法の検討

RC-2に搭載する機上電波測定装置は、平成16年度から開発に着手し、令和元年度末に評価試験を終了。主要な能力である、電波収集能力について、我が国の防空に必要とされる水準を満たすか否かを評価。

3 検討結果

RC-2は、電波収集能力に関し、必要とされる水準を満たしていた。

次に、運用構想や具体的な整備計画などの所要の要件を確認したところ、満たすべき要件について確認できたことから、**RC-2に搭載する機上電波測定装置の取得経費を令和3年度予算案に計上することを決定した。**

なお、RC-2の量産単価は約509億円、ライフサイクルコスト[※]は約6,525億円の見積りとなった。

※ 選定手続における一定の条件下での見積りであり、今後、変更があり得る。

「ASM-3A」

1 事業の概要

本事業は、我戦闘機の残存性を確保しつつ、彼戦闘艦艇等に対し脅威圏外から有効に攻撃するため、超音速飛しょうにより高い残存性を有する空対艦誘導弾である射程延伸型ASM-3（ASM-3A）を取得する。

なお、周辺国の艦艇が急速に近代化する状況を踏まえれば、従来型より射程等が向上した空対艦誘導弾を早期に取得する必要があるため、本事業は、令和2年度から着手したASM-3（改）の開発の途中成果を反映したASM-3Aの量産取得を行うものである。

※ ASM-3Aより能力向上するASM-3（改）の開発は継続して実施予定。



イメージ図

2 取得方法の検討

ASM-3（改）の開発の途中成果を反映したASM-3Aについて、主要な能力である、飛しょう距離、飛しょう速度が、我が国の島嶼防衛に必要とされる水準を満たすか否かを評価。

3 検討結果

ASM-3Aは、飛しょう距離、飛しょう速度に関し、必要とされる水準を満たしていた。

次に、運用構想や具体的な整備計画などの所要の要件を確認したところ、満たすべき要件について確認できたことから、**ASM-3Aの取得経費を令和3年度予算案に計上することを決定した。**

なお、ASM-3Aのライフサイクルコスト^{※1、※2}は約335億円の見積りとなった。

※1 誘導弾の経費を含まない。（誘導弾の経費から保有数量が推定される懸念があるため公表しない。（量産単価も同様。））

※2 選定手続における一定の条件下での見積りであり、今後、変更があり得る。